

地域のリサイクル情報誌

『ヴェーナス通信』



商標登録第 4882482 号

Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第92号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 65
TEL : 042 - 395 - 9788
FAX : 042 - 395 - 9787



kg 単価ではなく 1 台あたりの回収コストに見合う仕事に！

これまでの私たちの商売では、どれだけ荷物の量（重さ）を集めるか、月何トン取り扱っているということを一つの指標にしてきた。この10年間で古紙回収率は0.4ポイント上がって81.7%（2024年）となったが、古紙回収量は18%も減っている。日経古紙相場からすると古紙価格も平均で3割下がったので、量×単価で単純計算すると、古紙の再生事業の売り上げはおよそ4割減となったことになる。

また、近年新聞や雑誌といった比重の重い古紙が減り、段ボールや雑紙といった嵩張る古紙が増えたことで、1台あたりの重量は減少し、回収効率も悪くなっている。実際、組合の集団資源回収の新聞、雑誌（雑がみの配合率も加味）、段ボールの内訳の変化から試算すると、この10年間で2トン平ボディ車満載（5m³）に積んだ古紙の重さは70%程度にまで減っている。嵩張る古紙が増えていることから、回収車両は

平ボディ車を減らし、倍くらい高いパッカー車を増やした。パッカー車は圧縮しながら積み込みをするので、平ボディ車よりも量を積むことが出来るが、1品目しか巻き込めないのも、新聞、雑誌、段ボールと複数品目を同時に回収するには2台以上の車両が必要になる場合もある。

そして、古紙問屋においても、ひも取り機にかからない段ボールのひも切りと、禁忌品の混入の多い雑がみの選別のために選別員を増やして対応せざるを得なくなっている。置き場にしても、同じ重さを積むなら、バラの段ボールは新聞の10倍のスペースが必要になる。古紙プレス機で加工した場合でも、段ボールは新聞の80%くらいの重さなので、保管効率は悪い。

つまり、如何に嵩張る古紙類を効率よく回収し、選別加工するかがポイントで、重量ではなく容積との勝負にシフトしているのである。重量が減っている以上、kgあたりいくらでは、回収や選別に係るコストを賄えないのだ。

持ち込んで頂くか回収に伺うか、どんな車で回収するか、搬出にどれだけ手間がかかるかなど条件によって異なるが、基本的に回収にはコストがかかる。とは言え、kgあたり換算で焼却コストより高くなってしまつと分別せずごみにされてしまう。そんなギリギリのラインで資源回収業者は事業を行っている。

リサイクルには基本コストがかかるが、環境問題におけるその意義を考えて頂き、kgあたりではなく1台あたりの回収費用をしっかり頂戴できる仕事にしていきたい。（TKO）

●ヴェーナス通信91号 目次●

- P 1…kg 単価ではなく、1台あたりの回収コストに見合う仕事に！
- P 2…『危険物を古紙に混入させない、混入しそうな場所に古紙の回収袋を置かないで下さい』
- P 4…リデュース・リユース・リサイクル 組合活動よもやま話（1）
- P 5…リサイクル掲示板『シュレッダーにかけた古紙について』
- P 6…日資連全国大会、安全講習会、講演活動及び取材、各市リサイクルイベントの報告と案内
- P 8…共同受注検査を実施、行事・行動、編集後記

危険物（モバイルバッテリー、バッテリー内蔵型小型家電類、スプレー缶、ライター等）を古紙に混入させない、誤って混入しそうな場所に古紙を置かないようお願いします！



古紙回収のパッカーが炎上！

五月十四日（水）、東村山市の古紙・古着の資源回収を行っていた当組合のパッカー車が全焼する火災事案が発生しました。小型家電類が含まれる不燃ごみ収集ではこれまでもパッカー車の火災事案が多発しており、市では市民の皆様にご注意を呼び掛けておりましたが、古紙回収車で火災が発生したのは組合の中では初めての事です。

当日は、火元と思われる着火式ライターを巻き込んでまもなく煙が出始め、それに気が付いた後続のパッカー車のドライバーが運転手にそのことを伝えて安全な場所に移動し、119番通報して、車両に積載していた消火器を用いて初期消火にあたりました。消防隊、地元の消防団に駆けつけて頂き、消火活動が行われましたが、積み荷の古紙とルーフに積載していた古着類が激しく燃えたことで、パッカー車は積載装置が使用不能になり、消火のために天井部と側方を切断せざるを得なかったため、廃車となってしまいました。大惨事にもかかわらず、けが人や近隣への延焼被害がなかったことはご報告しておきます。

この後、秋水園まで車両を移動

して、消防及び警察関係者、市職員の皆様のお立会いの下で遅くまで現場検証が行われました。関係各位の皆様のご労苦に対し、心より感謝を申し上げます。



秋水園での現場検証。燃えた古紙を取り出すのに側面がくりぬかれている。

危険物が混入した場合のリスクが高い古紙回収

古紙回収の場合、不燃ごみと違って可燃性の高い古紙であり、火災になった場合の火の回りが非常に速いです。また、使用しているパッカー車がごみ収集でよく使われている巻き込み式ではなく、プレス式が多いのも被害が起きやすい一因です。プレス式は、投入口において歯のついた回転板で荷物を掻き込むため、この時点で回転

板に挟まれた荷物にかなりの圧がかかります。そして、排出板と押し込み板で圧縮をしながら積み込んでいくので、積載された荷物には常に強い圧力がかかった状態になります。一方、ごみ収集で主に使用している巻き込み式は、始めは中が空洞のため、荷物が満載になっただけならば圧はかかりません。つまり、古紙は、不燃ごみと違って危険物が混入する可能性は低いですが、一旦危険物が混入してしまうとパッカーの特性によって火災に発展するリスクが非常に高いと言えます。

何故危険物が混入した？

こうした危険物は、明らかに「紙」ではありません。分別を間違えてしまうようなものではありませんし、悪意をもって混入させたとも考えづらいです。今回の火災の原因は、おそらく雑がみの中に混入していた着火式ライターではないかと言われています。考えられるのは、玄関の靴箱や台所の棚に置いてあった着火式ライターが落ちて、その下に置いてあった雑がみ整理袋の中に入ってしまったのではないのでしょうか。

今までも、新聞整理袋の中に重しとして置いていた漬物石や鉄ア

レイ、カボチャなどが間違つて混入してることがありました。靴を乾かしていた上に新聞を置かれてしまい、気づかずに出されたことで、古新聞から靴が出てくるなんてこともありました。こうした誤混入のおそれを回避するためにも、スプレー缶やライターなどが置いてある近くに雑紙の整理袋を置かないように気を付けて頂きたいと思えます。

段ボールや紙箱をつぶしていないことによる混入

回収に出された段ボール箱がきちんとつぶさない状態で出されていることがあります。平ボディ車で回収する場合は、つぶして、たんで、ひもで縛っておかないと嵩張つてうまく積み重ねられなかつたり、風で飛んでしまつたりするので、回収作業員がその場で箱をつぶして積み込んでいきます。近年パッカー車が広く普及するようになり、潰していない段ボールもそのまま巻き込むことが出来るようになってきました。ですが、箱のままで巻き込んだ瞬間に、段ボールの中に残っていた発泡スチロールや蛍光灯が破裂してしまうことが時々発生します。粉々になった蛍

光灯の破片や、静電気でこびりつく発泡スチロールの小片を拾って処理するのはなかなか一苦労です。もし、段ボール箱の中に、充電式の小型家電やモバイルバッテリーがそのまま入っていたら：もしではなく、実際に箱に入つたままの小型ゲーム機を重機で踏んでしまい、古紙ヤードでボヤ騒ぎになったことがあります。幸い火が出るところまで行く前に気が付いて消火しましたが、気が付かないで古紙プレス機に入ってしまった場合、パッカー車以上の高圧縮でプレスされれば間違いなく火災につながり、しかもパッカー車が燃える以上の大きな被害につながるだけでなく、近隣の方々にも多大なるご迷惑をおかけするところでした。



ボヤ騒ぎの原因になったリチウムイオン電池内蔵の小型ゲーム機。

段ボールはパッカー車回収が主流になる中で、相変わらずつぶし

て束ねて出して下さいとお願いしているのは、こうした不純物や危険物の混入を防止する意味もござります。市民の皆様におかれましては、段ボール箱、紙箱は、中身が空であることを確認の上、つぶしてひもで縛って出すように切にお願ひ申し上げます。

車両やヤード火災の被害は：

パッカー車は、普通のトラックの倍近い価格ですし、新車を注文してから納車までには一年以上かかります。さらには、普通自動車と違い、トラックの車両保険では時価でしか保険金は下りません。代わりにの新車を購入するにも、修理をするにも全く足りません。今回は、たまたま予備のパッカー車が一台余っていたので、資源回収を継続することが出来、市民の皆様にご迷惑をお掛けせずに済みましたが、業務に支障をきたしたしかならない事態です。

ヤード火災の場合は、古紙のプレス機や在庫である製紙原料、古紙のバラ在庫などが被害を受けます。数千億単位の被害が発生します。火災保険である程度は担保できますが、事業再開までには休業を余儀なくされますし、市街地で商売をしている古紙問屋にとつ

ては、近隣にご迷惑をおかけしたとあつては事業の継続が困難になる可能性があります。そして、こうした被害の補償はというと、結論的には自社で何とかするしかないというのが実態です。出来ることは、再発防止のためにもこうして皆様に注意喚起を行うことしかありません。

◎まとめ

回収に伺っている作業員は、十分注意をして作業を行っています。紙袋や箱を全て確認していくのは非常に困難です。選別の現場でも見落とす可能性があります。最終的には、資源物を出す市民の皆様の協力が不可欠です。最後に皆様にお願ひしたいことをまとめておきますので、ご理解、ご協力のほどお願ひ申し上げます。

- ① 危険物（モバイルバッテリー、バッテリー内蔵型の小型家電類、スプレー缶、ライターなど）を古紙には絶対に入れないで下さい。
- ② 危険物が誤って混入しそうな場所に古紙の整理袋を置かないで下さい。
- ③ 段ボールや紙の箱は、中身を取り出して、つぶしてひもで束ねて出して下さい。

リサイクル掲示板

シュレッダーにかけた古紙について

個人情報保護の観点から、最近ではご家庭でも広く古紙の裁断機（シュレッダー）が普及しています。ご家庭用の手回しタイプから、磁気ディスクまで破碎できるような強カタイプまで様々なシュレッダーが販売されています。今回の掲示板では、シュレッダー古紙について取り上げたいと思います。



① シュレッダーにかけた古紙はトイレットペーパーやティッシュに再生されます。

シュレッダー古紙は、以前は可燃ごみとして取り扱われていた時期もありましたが、現在は古紙として回収されるのが一般的です。シュレッダー古紙は、普通の雑がみとは別にして、袋から中身を出し、圧縮加工したものを、小さな紙が飛散ないようにラップでぐるぐる巻きにします。製紙原料の『込頁』という品目として、コピー用紙などの『上見当』という品目と同じくトイレットペーパーやティッシュの原料として家庭紙メーカーに納入します。



この地域のご家庭や事業所から集められたシュレッダー古紙は、静岡県のご家庭紙メーカーに運ばれ、組合ブランドトイレットペーパー『ブーメラン』に生まれ変わって戻ってきます。



プレス加工されたシュレッダー古紙

② トイレットペーパーやティッシュに再生されるので、元々白い紙が基本です

先述の通り、シュレッダー古紙は、家庭紙（トイレットペーパーやティッシュ）に再生されるため、原料も元々白い紙が基本になります。白くない紙が混入すると、その分漂白のために薬品を多く使用しなければならないからです。古紙をシュレッダーにかける場合は、なるべく白い紙を基本とし、色付きの封筒、色のついた紙はシュレッダーにかけないでそのまま雑がみとして出すようにして下さい。

③ 細かすぎる裁断は、製紙原料に向きません

最近では、書類を再現できないように1ミリ未満のサイズに裁断（マイクロカット）するシュレッダーもあります。ほぼ粉みみたいなシュレッダー古紙も見かけることもあります。ただ、細かすぎるシュレッダー古紙は、うまく圧縮梱包できなかつたり、製紙会社で古紙を繊維状にほぐすパルパーという機械で水を加えて攪拌する際に表面に浮いてしまい、古紙パルプになりづらいことがあります。シュレッダーを購入する際は、細かすぎる裁断サイズを選ばないようにお願いします。



ミカットされた古紙

④ 丈夫で程よいサイズのビニール袋でしっかり縛る、まとめて出さない

シュレッダー古紙は、嵩張るため回収する際は非常に手間がかかります。雑がみを巻き込んでいるパッカー車と一緒に巻き込むことも出来ません。大きな袋で出されたり、大量にまとめて出されると、それだけで荷台がいっぱいになってしまいます。45リットル程度の破けにくい、中身の見えるビニール袋に入れて、紙片がこぼれないようしっかり縛って、一度に2袋程度までにして出して下さい。

⑤ 紙以外のものをシュレッダーにかける場合は、別途処理をお願いします。

CDやDVDも破碎できる強力なシュレッダーが販売されていますが、古紙として回収できるのはあくまで紙の書類を裁断したものに限りです。右の写真のようなCDやDVD、プラスチック製カード、パウチした書類、クリアファイルなどをシュレッダーにかける場合は、古紙とは別にして、不燃ごみとして出すようにお願いします。



個人情報が入っている文書が大量にある場合（おおむね段ボール100ケース以上程度）、箱から開けずにパッカー車で巻き込み、そのまま製紙会社に運搬し溶解処理を行う直接溶解という方法があります。金融機関、医療機関、官公庁などからもご依頼を頂いています。運搬費用をご負担頂きますが、溶解証明も出ますので、ご興味のある方はご相談下さい。

リデュース・リユース・リサイクル
組合活動よもやま話 (一)

昭和三九年四月、社会人となつた年の夏、東京都「夢の島」のゴミの山を見学して、何か自分のできることはないかと痛感した。国は、高度経済成長期で大量生産大量消費と沸き返っている頃だ。二年後二四歳の秋、脱サラをして資源回収業界に飛び込み、気付いてみたら今生の仕事となっていた。四〇数年間、各種資源組合に関わってきたが、その見聞や体験談を、想い出しながら綴ってみた。

買禁止令が、生きていたようだ。東資協が消毒事業の委託組合だったため、加盟が義務だった。また回収員は、保健所で鑑札を取得しなればならなかった。当時の回収員の形態は、古紙類とチリ紙とを交換する、「チリ紙交換員回収」が主になっていた。当社は、市民団体と協力した集団回収事業を主力に営業を始めた。都知事が美濃部亮吉氏で、「ゴミ戦争宣言」を発令した時期だ。東資協の理事長は、江戸川区の第九代石井清蔵氏だった。昭和四五年五月、支部の総会に出席された石井理事長に初めてお目にかかりご挨拶させて頂いた。石井理事長「あんた若いね、うちの俵は、ワシの言う事など何も聞いてくれなくて困ったもんだよ」吉岡支部長「理事長のご子息はお幾つになられましたか？」理事長「ワシと同一年だよ」そっちのセガレさん・吉岡支部長は爆笑すると顎がはずれる癖があり、大騒ぎしたことを想い出した。東資協理事長は、初代那須野定平氏をはじめとして老舗問屋の社長連が引き継がれ、戦事中は資源報国挺身隊等を組織し、戦後には東資協始め業界の礎を築かれた。包容力のある篤実な方々で、豪快

な伝説の数々も伺いましたが、八代窪田吉丸理事長の代までは直接お会い出来なかった。石井理事長は、昭和二三年創立の組合「東資協二十年史」三四六頁を発刊された。役員中心の編纂委員による三年間の壮絶な労の発刊と聞いた。委員の藤倉直次郎氏・高橋隆治氏・渡辺為好氏から、組合資料の整理、歴史本や関係業界の膨大な文献調査、古老から聞き取りなどの苦労話を直接伺うことが出来た。また、日資連（日本再生資源事業協同組合連合会）顧問の資源新報社太田原秀義社長には、長年にわたって業界の歴史や組合活動の基礎からご指導頂いた。改めて二十年史を読み返して見ると、江戸時代から3Rの貴重な史料が万載していて、特に鎖国下の庶民の生活は、SDGs（持続可能な開発目標）を完璧に実行していたのだと感じた。当時江戸は八百八町に生活する町民五十万人の内三十万人が長屋住まいで、隣組同士で衣食を分け合いながらも、楽しく暮らしていた。その後文明開化の明治大正時代、そして昭和二十年代まで、二つの大戦ははじめ戦事にまみれながらも、少資源国としての模範的な3R制

度が確立されていたようだ。二十年史に、大正六年頃の屑物の取扱品と用途・価格が詳しく載っている。鉄・非鉄屑・古紙・硝子屑等は、単に再生のほか形態や品質色別など細かく選別され、再利用再利用していた。古繊維類も大小・白物色物ほか毛糸・ネル・モス・ラシヤ・麻など数十種類に分けられ、最後には製紙原料となっていた。この他にも古ゴム類（ゴム長・地下足袋の底・ゴムまり・自転車チューブ）など高値で売っていた。ブリキ缶は下駄底や玩具に・貝殻類は釘に・蜜柑皮は香料に・髪の毛なども貴重な取扱品目だった。古フンドシ（六尺一本5銭）これが何に再使用されたか？ ヒミツ。他にも、屑物になる前の、古物古道具屋・古着屋・鍔掛屋など各種3R関係の商売が軒を連ねていた。なお、この頃の分別技術や流通システムは、今の静脈産業の中にも沢山引き継がれている。次回は、実際に関わった「東資協五〇年史」をもとに、資源リサイクル事業存亡の闘争や国の対応、清掃行政との関わり、市民との連携運動などの「よもやま話」を綴ってみたい。 つづく

顧問（こんの）

第五十三回 日資連全国大会

IN東北に参加して

七月四日(金)午後二時三十分より宮城県仙台市の江陽グランドホテルにおいて第五十三回日本再生资源事業協同組合連合会の全国大会東北宮城大会が開催されました。

当組合からは、吉浦高志代表理事、福田雄二副理事長、紺野琢生専務理事、小畑和夫理事、水野彰理事、監事である私、藤本と六名が参加しました。

第一部の式典では、開会宣言の後、日資連旗が厳かに入場し、東北六県再生资源組合連合会の高橋文一会長の歓迎挨拶、日資連飯田俊夫会長の挨拶があり、続いて一連の総会報告が行われました。

その後、表彰式、村井嘉浩宮城県知事代理小林徳光副知事、郡和子



日資連旗を受け取って大きく掲げる東北資連高橋会長

仙台市長をはじめとする来賓の祝辞が続く、大会決議宣言と次期大会開催地決定報告(福井県福井市)が行われ、山本一浩日資連副会長の閉会の辞をもって第一部は終了しました。

第二部では、資源新報社論説委員・北日本支局長の小松崇明氏による「小松君の青春」と題する記念講演がありました。「傘寿の青春」と題する同氏の著書に書かれている通り、小松崇明氏の破天荒な生きざまを講演されました。日資連総務委員長である当組合吉浦理事長が謝辞を述べ、講演会は終了しました。

第三部の懇親会は、日資連特別顧問の松原仁衆議院議員をはじめとして、各種業界団体代表者、業界紙記者、サポート企業の皆様を含め二百人近い参加者で開催されました。主催者と来賓による鏡開きの後、舞台ではジャズやボサノバの演奏もあり、牛タン焼きの屋台や東北自慢の日本酒カウンターなどお祭りのような賑やかさの中で参加者は積極的に情報交換を行っていました。

当組合からの参加者は、翌日、東日本大震災後十四年余りが経過する宮城県南部を視察・見学しました。南三陸復興祈念公園内に残



南三陸町の旧防災庁舎前にて

る防災庁舎、石巻市震災遺構大川小学校、それらに隣接する伝承館などを見て、震災からの復興の状況を知るとともに、命の尊さと重さ、そして事前防災の大切さを改めて心に刻みました。なお、巻頭写真は、帰りに立ち寄った西行戻しの松公園から見下ろした日本三景「松島」の写真です。(藤本)

資源回収車両運転者安全講習会

去る七月二十四日(木)西東京市のコール田無にて資源回収車両運転者安全講習会が開催されました。この日は、二年前に当組合車両が関係する重大事故が発生した日であり、この日のことを忘れず、二度と重大事故を起こさないために開催いたしました。

共同受注検査委員会大久保副委

員長の司会進行の元、開会前に被害者の方に対する黙祷を行いました。眞瀬委員の開会宣言の後、小嶋委員による「東多摩再資協 安全・行動宣言」の唱和を組合員全員で行い、組合を代表して吉浦理事長が挨拶をしました。

続いて、来賓としてご臨席いただいた、西東京市みどり環境部長白井一嘉様、同じく資源循環推進課長西川毅様よりご挨拶をいただきました。紺野専務理事より本日の趣旨説明と講師紹介があり、田無警察署交通課交通総務係統括係長笠継隆二様による安全講習会が始まりました。

講習会では、飲酒運転に関する危険性を紹介するビデオの視聴と、二輪車事故の危険性に関するご説明を頂きました。福田副理事長より謝辞を行い、共同受注検査委員会

会浦田委員

の閉会宣言で終了しました。



講師から、交通事故対応の知識と経験からいろいろなお話を伺いました

官公需適格組合としての当組合の
取り組みについて講演しました

去る六月二四日新潟県新潟市、七月十五日埼玉県さいたま市にて、それぞれ新潟県、埼玉県の中小企業団体中央会より依頼を受け、官公需適格組合としての当組合の取り組みについて紺野専務理事が講演を行いました。

当組合は、平成十七年に関東経済産業局管轄下で第一号となる官公需適格組合の認証を受けております。委託業務に関する安全と品質向上を目指して、車両の整備や回収作業員への指導教育の実施、内部検査制度としての共同受注検査の実施を始め、当組合の業務に対する姿勢と取り組みについてお話をしてまいりました。講演後の交流会でも参加者の皆様といろいろな情報交換をすることが出来、組合としても更に取り組みを進めていく決意表明にもなりました。



新潟県官公需協議会総会後の講演会にて、組合の取り組みを説明する紺野専務理事

東京ボランティア・市民活動センターの取材を受けました

当組合では、同センターから実際の回収現場と組合事務局での取材を受け、『目指せごみ捨て名人』をテーマとした企画で、古紙の出し方について情報提供を行いました。古紙の発生が減っている中で、如何に可燃ごみに混入しているリサイクル可能な紙類を市民の皆様に分別して頂くか、一方でリサイクルに適さない禁忌品類、特に汚れや油の染み付いた紙、臭いのきつい紙など、古紙に混入した場合に特に影響が大きい禁忌品類の混入を防止するかという課題についてお話をさせて頂きました。

機関紙『ネットワーク』六月号の五〜七頁に記事が掲載されています。是非ご覧下さい。



記事本文の抜粋と詳細な説明が記載されています。

春・夏の各市のイベントに出展

当組合では、春から夏にかけて開催された、こだいら環境グリーンフェスティバル(五月)、小平市リサイクルきやらばん(六月)、東久留米市環境フェスティバル(六月)、きよせの環境・川まつり(七月)に今年も出展し、おもちゃ・育児用品・食器などの小物雑貨類の無料回収と分別ゲーム、分別に関するアンケートや展示を行いました。

多くの市民の皆様を訪れて頂き、雑がみ回収袋、ヴィーナス通信、分別の資料を配布しました。下記にご案内の通り、秋にもイベントが多数開催されますので、是非足をお運びください。



各地イベントでの出展の様子。5月くらいから暑い日が続いており、熱中症対策をしながら参加しました。

●秋の当組合が出展するイベント案内●

今年度も、各市で開催されるイベントに出展いたします。是非、足をお運びください。なお、詳しくは、各市の市報やホームページをご確認ください。

- 9月6日(土) 10:00~11:30 東村山市総合防災訓練 @第二中学校校庭
~防災に関する展示とアンケート調査などを行います。
- 10月19日(日) 10:00~14:30 東村山市エコライフフェア @秋水園
~食器・育児用品などの小物雑貨類の無料回収と古紙分別ゲームなどを行います。
- 10月25日(土) 10:00~14:00 小平市ごみゼロフリーマーケット @小平市文化センター
~食器・おもちゃ・育児用品などの小物雑貨類の回収と、展示及びアンケート調査を行います。



東久留米市ごみ対策課のスペースをお借りして、早朝より回収車両の検査を行っています。

共同受注検査を行っています

当組合では、官公需適格組合の認証に基づき、資源回収に使用する車両と人員に対して、共同受注検査を行っています。

共同受注検査委員は、組合各社から二名程度推薦をし、毎年八月から翌年七月までの任期で理事長から委嘱を受け、年四回組合前、東久留米市ごみ対策課駐車場、各社での出庫前にて検査を行います。免許証、身だしなみ、車検や車両の整備状況など、法令や仕様書、組合の規定に沿って業務が行われています。指摘事項があった場合、組合員各社に改善を促しております。このところ、大きな問題はありませんが、厳しい検査員の目をもって、これからは法令順守、委託仕様書に沿った事業の安全かつ完全施行に努めて参ります。(TKO)

行事・行動

【六月】

- 三日：小平RC責任者会議
 - 四日：東村山市エコライフフェア実行委
 - 七日：第五三回日資連総会
 - 七〇八日：東久留米市環境フェスティバル
 - 九日：小平RC関連JV会議
 - 十三日：東資協理事会
 - 十六日：小平市リサイクルくらばん
 - ：古紙センター理事会
 - ：定例理事会
 - 二三日：財務委員会・広報委員会
 - ：業務・集団回収委員会
 - 二四日：新潟県官公需協議会
- ### 【七月】
- 二日：東村山市エコライフフェア実行委
 - ：小平RC責任者会議
 - 四日：日資連全国大会宮城大会
 - 七日：小平RC関連JV会議
 - 八日：拡大業務委員会
 - 十一日：清瀬市廃棄物減量審
 - ：東資協理事会
 - 十四日：財務委員会
 - ：定例理事会
 - 十五日：埼玉県官公需協議会
 - 十八日：西東京市廃棄物減量審
 - ：小平RC暑気払い
 - 十九日：日資連理事会
 - 二一日：共同受注検査(東村山市)
 - 二二日：共同受注検査(西東京市)
 - 二三日：共同受注検査(東村山市)
 - 二四日：回収車両運転者安全講習会

二五日：共同受注検査(東久留米市)

二六日：きよせの環境・川まつり

二八日：官公需確保地方推進協議会

：業務・集団回収委員会

二九日：共同受注検査(西東京市)

三十日：東村山市収集業者連絡会議

三一日：共同受注検査(東久留米市)

：小平RC安全ミーティング

【八月】

二日：組合家族慰安会

五日：東村山市総合防災訓練調整会議

：小平RC責任者会議

六日：東村山市エコライフフェア実行委

：東リ協会理事会

八日：東村山市廃棄物減量審

：東資協理事会

十一日：定例理事会

十八日：小平RC関連JV会議

二十日：共同受注検査委員会

二五日：小平市廃棄物減量審

：業務集団回収委員会

編集後記

東京都議会議員選挙、参議院議員選挙と大きな選挙が終わりまじした。SNS、特にショート動画を通じて、様々な情報が飛び交い、結果的には投票率も伸び、変化を求める国民の世論が反映された結果になったのかなと思います。選挙後、ポピュリズムへの批判、デマや陰謀論への対応としてSNS規制の話が出ておりますが、政

府やマスコミが国民に必要且つ正しい情報をしっかりと伝えてくれているのかどうか、疑問は感じています。特にオールドメディアと言われる新聞やテレビには、芸能人のスキャンダルよりも大事なニュースを伝えて頂きたいです。某国よりも厳しい財務状況にあるのは国ではなくて国民です。国は増税すれば歳入が増えるかもしれませんが、国民は、簡単に収入を増やせません。米がないんじゃないかと、お金がないんです。不安定な市況の中、物価や人件費の高騰に苦しみながら日々経営努力をしている資源回収業者も同様です。それでも、安易な減税や給付金や補助金のばら撒きがいいとは思いません。納めた税金が、日本国民が豊かになるために、生まれたばかりの赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らせる社会のために正しく使って頂ければいいのです。火のない所に煙は立たぬではありませんが、隠し事やウラがなければデマも陰謀論も出てきません。私は、日本の歴史、風景、人、文化全て大好きです。これからも大好きな日本で安心して住み続けるために、前向きな変化が起きることを期待し、私も頑張りたいと思います。(TKO)